

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	数学B	通年2単位		6	8	3

◇科目の目標

数学Ⅰ・Ⅱより進んだ内容を理解し、合わせて基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。

◇科目の概要

これまでより進んだ内容のいろいろな数列、平面・空間のベクトルについて学ぶ。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

学習書がないので、機会があるごとに副教材の参考書を利用する。

◇使用教科書

数研出版 改訂版「新 高校の数学B」

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	5月 1日・ 2日	1	平面上のベクトル (演算・成分)	8～21
2	5月15日・16日	2	平面上のベクトル (内積・位置ベクトル)	22～32
3	6月26日・27日	3	空間のベクトル	38～41
4	7月24日・25日	3	空間のベクトル	42～44
5	10月16日・17日	4	数列とその和	53～63
6	11月 6日・ 7日	5	和の記号 Σ ・いろいろな数列の和	64～69
7	12月 4日・ 5日	6	漸化式と一般項	70～74
8	12月18日・19日	6	漸化式と一般項	75～76

◇テスト範囲

後期期末テスト	レポート1～3	後期期末テスト	レポート4～6
---------	---------	---------	---------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。
 観点別評価の「知識・技能」は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
 「思考・判断・表現」は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。「主体的に学習に取り組む態度」はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	ベーシック 数学(後)	後期2単位		6	6	3

使用教科書 なし (手作り参考書教材使用)

◇科目の目標

数と式・図形の学習のための基礎的事項を確認しつつ、四則計算を正確に行う力をつける。さらに図形から角度や辺の長さを求める力をつける。

◇科目の概要

「自然数・小数・分数・正負の数の四則計算」、「無理数」「文字式」「因数分解」「2次方程式」「三角形の辺と角」の基本。

◇学習の進め方

スクーリングでの参考書解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

数学Ⅰの学習のために必要な基礎力をつけるための科目です。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容
1	10 / 2・3	1	自然数の四則計算・小数と分数
2	10 / 9・10	2	正負の数の四則計算
3	10 / 23・24	3	無理数・根号を含む数と式
4	12 / 4・5	4	文字式の計算
5	12 / 18・19	5	因数分解・1次方程式・2次方程式
6	1 / 8・9	6	三角形の辺と角

◇テスト範囲

後期中間テスト	レポート 1, 2, 3	後期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。観点別評価の【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	数学B	通年2単位		6	8	3

◇科目の目標

数学Ⅰ・Ⅱより進んだ内容を理解し、合わせて基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。

◇科目の概要

これまでより進んだ内容のいろいろな数列、平面・空間のベクトルについて学ぶ。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

学習書がないので、機会があるごとに副教材の参考書を利用する。

◇使用教科書

数研出版 改訂版「新 高校の数学B」

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	5月 1日・ 2日	1	平面上のベクトル (演算・成分)	8～21
2	5月15日・16日	2	平面上のベクトル (内積・位置ベクトル)	22～32
3	6月26日・27日	3	空間のベクトル	38～41
4	7月24日・25日	3	空間のベクトル	42～44
5	10月16日・17日	4	数列とその和	53～63
6	11月 6日・ 7日	5	和の記号 Σ ・いろいろな数列の和	64～69
7	12月 4日・ 5日	6	漸化式と一般項	70～74
8	12月18日・19日	6	漸化式と一般項	75～76

◇テスト範囲

後期期末テスト	レポート1～3	後期期末テスト	レポート4～6
---------	---------	---------	---------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。
 観点別評価の「知識・技能」は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
 「思考・判断・表現」は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。「主体的に学習に取り組む態度」はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	数学 I ②	後期 2 単位		6	1 0	3

使用教科書 東京書籍 「新数学 I」 「新数学 I 解答編」

2	東書	数 I 704
---	----	---------

2	東書	数 I 705
---	----	---------

◇科目の目標

中学までの復習から始め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方を認識できるようにする。

◇科目の概要

「基礎的な計算」、「2次不等式」、「三角比」、「データの分析」、「集合と論証」の基本と応用。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

数 I は必修科目です。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	1 0 / 2・3	1	基礎的な数の計算の復習、2次不等式	P4-11, P48-52 P96-98
2	1 0 / 9・10	1	2次不等式	P98~101
3	1 0 / 16・17	2	三角比、相互関係	P104~114
4	1 0 / 23・24	2・3	相互関係、三角比の応用(面積、正弦定理)	P115~119
5	1 1 / 6・7	3	三角比の応用(余弦定理、余弦定理の変形式)	P120~121
6	1 2 / 4・5	4	鈍角の三角比	P122~125
7	1 2 / 11・12	5	データの分析(度数分布表、ヒストグラム、相対度数)	P130~135
8	1 2 / 18・19	5	データの分析(代表値、偏差、分散、標準偏差)	P136~141
9	1 / 8・9	6	集合と論証(集合、命題)	P150~155
10	1 / 15・16	6	集合と論証(命題、必要十分条件、証明)	P155~159

◇テスト範囲

前期中間テスト	レポート 1, 2, 3	前期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。 観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	数学Ⅱ①	前期2単位		6	10	3

使用教科書 東京書籍 「改訂 新数学Ⅱ」

2	東書	数Ⅱ 319
---	----	--------

◇科目の目標

基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。

◇科目の概要

数学Ⅰに続く内容として、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数について学ぶ。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

各レポート1枚分の内容が多いので、予習をしてから、スクーリングを受けるようにする。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	4 / 24・25	1	複素数	18～21
2	5 / 1・2	1	2次方程式, 解の判別, 解と係数の関係	22～25
3	5 / 8・9	2	整式の除法と因数定理, 高次方程式	28～34
4	5 / 15・16	3	直線上の点の座標・平面上の点の座標	44～51
5	5 / 29・30	3	直線の方程式, 2直線の関係	53～59
6	6 / 26・27	4	円の方程式, 円と直線	61～64
7	7 / 3・4	4	不等式・連立不等式の表す領域	68～73
8	7 / 10・11	5	三角関数の一般角と相互関係	78～83
9	7 / 17・18	6	三角関数のグラフと性質	84～89
10	7 / 24・25	6	三角関数を含む方程式, 加法定理	90～93

◇テスト範囲

前期中間テスト	レポート 1, 2, 3	前期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。 観点別評価の
【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。
【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	数学Ⅱ②	後期2単位		6	10	3

使用教科書 東京書籍 「改訂 新数学Ⅱ」

2	東書	数Ⅱ319
---	----	-------

◇科目の目標

基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。

◇科目の概要

指数・対数関数と微分・積分について学ぶ。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

各レポート1枚分の内容が多いので、予習をしてから、スクーリングを受けるようにする。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	10 / 2・3	1	指数の拡張	102～107
2	10 / 9・10	1、2	指数関数のグラフと指数方程式	108～110
3	10 / 16・17	2	対数、対数の性質	112～114
4	10 / 30・31	2、3	対数関数とそのグラフ、常用対数	115～118
5	11 / 6・7	3	常用対数と底の変換公式	118～120
6	12 / 4・5	4	平均変化率・微分係数と極限值	126～129
7	12 / 11・12	4	微分係数・導関数と接線の方程式	129～135
8	12 / 18・19	5	関数の極大・極小、最大・最小	137～144
9	1 / 8・9	5、6	不定積分	146～149
10	1 / 15・16	6	定積分、面積	150～154

◇テスト範囲

後期中間テスト	レポート 1, 2, 3	後期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。

教科名	科目名	単位数	担当者	レポート枚数	開講時数	必要面接時数
数 学	数学 A	前期 2 単位		6	8	3

使用教科書 東京書籍 「新数学 A」

2	東書	数 A 319
---	----	---------

◇科目の目標

平面図形、論理と集合、場合の数と確率について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばし、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

◇科目の概要

順列と組合せ、確率、平面図形の基本を身につける。

◇学習の進め方

スクーリングでのレポート解説を参考に、自学自習によるレポート作成を行う。

◇履修にあたっての留意点

予習をして、わからない所をスクーリングで聞くようにしましょう。

◇スクーリング計画

回数	開講月日	レポ番号	授 業 内 容	教科書 ページ
1	5 / 1・2	1	集合、共通部分と和集合、補集合、要素の個数、和の法則、積の法則	6～11
2	5 / 8・9	2	順列、階乗、重複順列、円順列	12～17
3	5 / 15・16	2 3	組合せ、組合せの応用 確率の基本、排反事象と和事象、余事象	18～23 24～31
4	5 / 29・30	3	独立な試行の確率、反復試行の確率、条件つき確率	32～41
5	6 / 26・27	4	相似、中点連結定理、三角形の重心・外心・内心	42～53
6	7 / 3・4	5	角の二等分線、円周角の定理、円周角の定理の逆	54～55
7	7 / 17・18	5・6	円に内接する四角形、四角形が円に内接する条件	56～57
8	7 / 24・25	6	円の接線、接弦定理（接線と弦のつくる角）、方べきの定理、2つの円	58～65

◇テスト範囲

前期中間テスト	レポート 1, 2, 3	前期期末テスト	レポート 4, 5, 6
---------	--------------	---------	--------------

◇成績評価の方法

成績はテスト、レポート、面接出席状況等から総合的に評価します。観点別評価の

【知識・技能】は主としてテストによる学習の定着度から評価します。よく学習しているものはA、合格の基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【思考・判断・表現】は6通のレポートの取り組みを総合して評価します。レポートの履修内容をしっかり取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、不合格の時はCとします。

【主体的に学習に取り組む態度】はスクーリングの出席状況と学習態度を合わせて評価します。出席状況がよく、積極的に学習に取り組んだものはA、合格基準を超えたものはB、合格基準を超えない時はCとします。